

高次脳機能障害の主な症状

記憶が保持できない
新しいことが覚えられない

記憶障害

ボーっとしている
集中力がない

注意障害

物事を計画して実行
することができない

遂行機能障害

やる気が出ない
物事を始められない

意欲・発動性の低下

肉体的にではなく、
精神的に疲れやすい

易疲労性

すぐにキレる
衝動的な行動をする

脱抑制・易怒性

自分が病気であることや、後遺症を理解できない

病識欠如

他人の考えを理解し、
自分の考えを表現する
ことができない

失語症

身近なものや身体を
認識できない

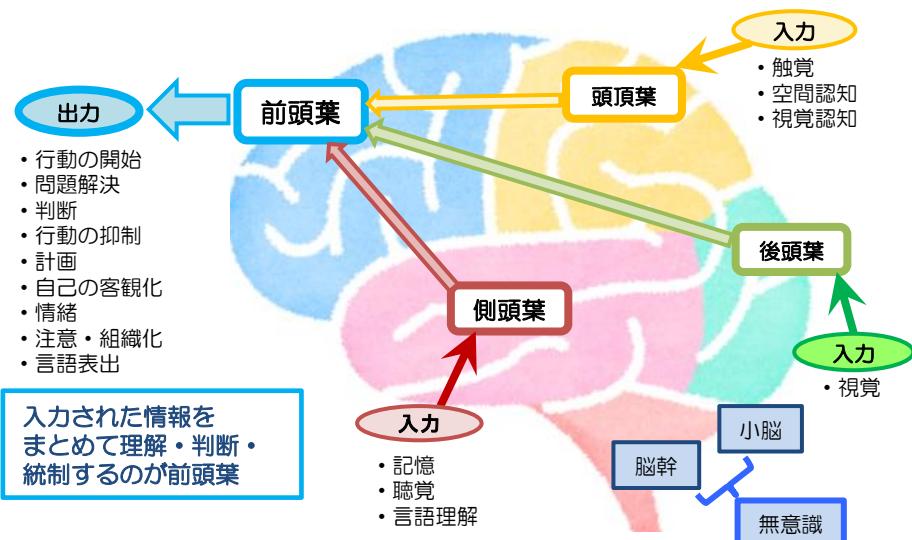
失認

「高次脳機能障害」という用語は学術用語として、脳損傷に起因する認知障害全般を指します。その中でも、社会生活への影響が大きい症状と、対応のヒントを次のページでご紹介します。

✿コラム：脳の部位とはたらき✿

脳はそれぞれ異なった機能を担っているため、損傷を受けた部位の機能が低下しやすいです。
そのため、損傷部位を確認することで、症状を推測することができます。

しかし、脳の各部位は相互に複雑につながっていることが多く、一か所に生じた損傷が、脳のネットワークを介して、他の部位にも影響を及ぼすことがあります。

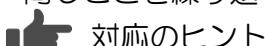


高次脳機能障害の主な症状と対応のヒント

脳の病気やケガ、もしくは心肺停止を経験した後に、次のような症状が出ることがあります。日常生活への影響が大きく、本人への適切な対応や周囲の理解が必要です。

● 記憶障害

- 新しいことが覚えられない
- 同じことを繰り返し質問する



対応のヒント

- ・スケジュール帳やカレンダー、タイマー等の代償手段を検討する
- ・大事なものや日常的に使用する物の置き場所を決めておく（収納棚などには、内容物がわかるように表示する）
- ・手順書等のヒントを活用し、繰り返し練習する

● 注意障害

- ぼんやりしていて、ミスが多い
- 二つのことを同時にを行うと混乱する

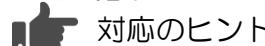


対応のヒント

- ・注意を維持できる範囲、時間内で作業を終え、休息を十分にとる
- ・作業をする時や大事な話をする時、刺激の少ない環境で行う
- ・興味のある作業から始めて、集中できる時間を増やしていく

● 遂行機能障害

- 自分で計画を立てて物事を実行することができない
- 人に指示してもらわないと何もできない

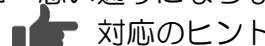


対応のヒント

- ・1日のスケジュールや生活環境はシンプルに整理する
- ・指示は、いつ、どこで、何をするのか明確に、具体的に伝える
- ・説明や指示内容はメモしてもらうか、メモを渡す
- ・困った時に相談する人や対応方法を決めておく
- ・作業は手順書を見ながら確認して行うよう練習する

● 社会的行動障害

- 興奮する、暴力をふるう
- 思い通りにならないと、大声を出す



対応のヒント

- ・環境の変化やマイナス感情への対処が困難で、ストレスをためやすいことを周囲が理解する
- ・混乱なく安心して過ごせるように、生活環境を整える
- ・疲労に配慮し、疲れる前に休息を取るように促す
- ・イライラしたら、場所を変えて相手との距離をとる
- ・守るべきルールや本人の行動は確認しやすいように書面など見える形で提示する